

10月24日

聖書 創世記23章1～20節

天の故郷を望む

23:1 サラの一生、サラが生きた年数は百二十七年であつた。

23:2 サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来てサラのために嘆き、泣いた。

23:3 それからアブラハムは、その死者のそばから立ち上がり、ヘテ人たちに告げて言った。

23:4 「私はあなたがたの中に居留している異国人ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば私のところから移して、死んだ者を葬ることができるのです。」

23:5 ヘテ人たちはアブラハムに答えて言った。

23:6 「ご主人。私たちの言うことを聞き入れてください。あなたは私たちの間にあって、神のつかさです。私たちの最上の墓地に、なくなられた方を葬ってください。私たちの中で、だれひとり、なくなられた方を葬る墓地を拒む者はありません。」

23:7 そこでアブラハムは立って、その土地の人々、ヘテ人にていねいにおじぎをして、

23:8 彼らに告げて言った。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたのおこころであれば、私の言うことを聞いて、ツォハルの子エフロンに交渉して、

23:9 彼の畑地の端にある彼の所有のマクペラのほら穴を私に譲ってくれるようにしてください。彼があなたがたの間でその畑地に十分な価をつけて、私に私有の墓地として譲ってくれるようにしてください。」

23:10 エフロンはヘテ人たちの間にすわっていた。ヘテ人のエフロンは、その町の門に入って来たヘテ人たちみなが聞いているところで、アブラハムに答えて言った。

23:11 「ご主人。どうか、私の言うことを聞き入れてください。畑地をあなたに差し上げます。そこにあるほら穴も、差し上げます。私の国の人々の前で、それをあなたに差し上げます。なくなられた方を、葬ってください。」

23:12 アブラハムは、その土地の人々におじぎをし、

23:13 その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げて言った。「もしあなたが許してくださるなら、私の言うことを聞き入れてください。私は畑地の代価をお払いします。どうか私から受け取ってください。そうすれば、死んだ者をそこに葬ることができます。」

23:14 エフロンはアブラハムに答えて言った。

23:15 「ではご主人。私の言うことを聞いてください。銀四百シケルの土地、それなら私とあなたとの間では、何ほどのこともないでしょう。どうぞ、なくなられた方を葬ってください。」

23:16 アブラハムはエフロンの申し出を聞き入れ、エフロンがヘテ人たちの聞いているところにつけた代価、通り相場で銀四百シケルを計ってエフロンに渡した。

23:17 こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわちその畑地とその畑地にあるほら穴、それと、畑地の回りの境界線の中にあるどの木も、

23:18 その町の門に入って来たすべてのヘテ人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。

23:19 こうして後、アブラハムは自分の妻サラを、カナンの地にある、マムレすなわち今日のヘブロンに面するマクペラの畑地のほら穴に葬った。

23:20 こうして、この畑地と、その中にあるほら穴は、ヘテ人たちから離れてアブラハムの私有の墓地として彼の所有となった。

説教 天の故郷を望む

サラの生涯は、サラの生きた年数は127年であった。サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来て、サラのために悲しみ、泣いた。

サラが127才で死んだ時、アブラハムは137才。二人が30才と20才で結婚しているなら、100年の結婚生活を送ったこととなります。金婚式の2倍の長さです。何婚式と言うのでしょうか。ダブル金婚式でしょうか。

二人は長い幸せな夫婦生活を送った。

カルデヤのウルを信仰によって二人は一緒に出発。

ハランで父テラの死まで滞在。

テラの死後、ハランを出発、約束の地カナンに到着。

妹と偽ってエジプト王やアビメレクの側室にあわやなる瀬戸際で神様に助けられています。イシュマエルの出産で苦勞します。90才まで待ってやっと約束の子、イサクを生むことが出来た。波乱のサラの生涯が終わりました。

サラの死に当たってアブラハムは涙を流しています。

アブラハムはサラを埋葬するためヒッタイト人(ヘテ人)と交渉しています。

23:4「私はあなたがたの中に居留している異国人ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば私のところから移して、死んだ者を葬ることができるのです。」

サラを埋葬するための墓地のための土地を売ってください。

アブラハムはこのヘブロンに住んでいる私有の土地を持っていない寄留者。

墓地の地を私有の土地として売ってくださいとお願いしています。

アブラハムは自分を私有地を所有していない寄留者、この地上は仮の一時的な住まいと告白して自覚しています。本当の家、ふるさとは天国と告白しています。ヘブル11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

11:14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。

あなた方の宝のある所に心もあります。ルカ12;30

寄留者であるとの告白。

ロトのは肥沃な土地を求め、この地上の財産を得ようと危険なソドムの町の中に住むようになり、滅びを招いてしまった。

アブラハムはロトように、この地上に財産を残すことを人生の目的の第一とはしなかった。

カルデアのウルという生まれ育った故郷を離れている。

約束の地、カナンでも土地財産を所有していない。

後ろ髪を引かれる究極の故郷ではない。

天の故郷を目指していた。

アブラハムに神様はこの地を与えると約束されました。

創世記17章8節

17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

しかしアブラハム137才の時まで、

寄留者で一坪の土地も所有していなかった。

サラを埋葬するため、私有の土地の購入をヘテ人に願った。

天に帰ったサラを偲ぶ場所として、

天の故郷を思う場所として墓地を所有しようとした。

ヘテ人はサラの埋葬のために私たちの最上の墓地に
葬ってくださいと親切に申しています。

ヘテ人の「私たちの土地に、私たちの墓地に」と言ってい
ます。

そこに葬ると、そこはヘテ人の墓地で、ヘテ人の宗教の支
配しているところでもあります。

アブラハムは召してくださった神様を思い、先に天に帰った
サラを偲び、天のふるさとを思うために

ヘテ人の宗教の墓地ではなく、
私有の墓地にこだわっていました。

アブラハムはヘテ人エフロン¹の所有している畑の土地と、そこに
あるマクペラの洞窟を購入したいと具体的に申し出ました。

エフロンは差し上げますと言いながら、アブラハムが購入したい
と言うと、銀400シエケルで売ります、

と高価な値段をつけましたが

アブラハムは銀貨400シエケルを支払って、

自分の唯一の私有地として所有しました。

アブラハムが持ったのはただ一人の子イサク、星のように多くな
ると約束を受けましたが、イサク一人。

カナンの全土を与えると約束されましたが

所有した土地はサウのための墓地だけでした。

約束の確かさ、保証、担保として

多くの子ではなくたった一人の子、イサクが与えられ、カナン全土ではなくサラのための狭い墓地の土地が与えられました。

あなたの子孫は空の星のようになる、あなたの子孫にこの全土を与えると言う約束の担保、約束の印としてアブラハムはイサクの母サラを埋葬するために、天のふるさとを望むために

マクペラの洞窟を唯一の私有地として購入して所有しました。イサク、サラのための墓地、小さい印ではありますが、確かな印、約束の保証を主はお与えになりました。

イエス様は種まきの例え話しをしておられます。

からし種の信仰。

パン種の信仰。

小さな信仰であっても、いのちのある信仰は必ず成長します。

アブラハムが実際に所有したのは
一人の息子と、サラのための墓地だけ。

しかしこれは神様の約束の確かさを示す印し。

今日、私たちも、全世界のクリスチャンも信仰によって霊
的なアブラハムの子孫とされました。膨大な数です。

福音宣教によって神の国は全世界に広がっています。

イエス様を信じた私たちの心の中に聖霊があたえられました。新しく生まれ変わって神様のいのちが与えられ、神様の力、支配、神様の国を味わって生きる者とされました。小さな信仰であっても、いのちのある信仰は必ず成長します。今、家族親族でたった一人のクリスチャンでも、一人でありましてもしっかりと信仰を持って歩めば、大きな神の家族となっていくます。

今日はスプロンク先生がビデオメッセージをしてくださいました。スプロンク先生は1972年WEC宣教師としてオランダから来日。

日本語教育を受けた後、1980年から草津開拓。1年の帰国をはさんで1987年まで7年ほど草津で奉仕。

スプロンク先生は
オランダの教会の中で育って来られた先生。
ヨーロッパには長いキリスト教の歴史があります。
1517年、ルターの宗教改革。
ドイツはルターの影響が強い。
フランスはカトリックの影響が残った。
スイス、オランダはカルビンの宗教改革の影響が強い。
カルビンの影響の強いオランダのキリスト教の背景
ルターは個人の回心、宗教体験を大切にする。
カルビンは個人の体験より、神様の主権、力、ご計画、
予定を重視。

∴ 世の初めから

天地創造／基礎／土台から

→ 救い(三国を受け継ぐ事)

→ 福音の宣教(殉教者)

→ 十字架による購い

→ 名が命の書に書かれた事



神様の力、主権、予定を重んじて行く信仰。
神様が決めていてくださるから、
安心して従うことが出来、安心して伝道が出来、委ねる
ことが出来る。
殉教ということになっても、またそれに至らなくても、主にあ
って苦難を受けることがあっても、人や自分のせいで起こ
ったことではなく、それも世の初めから神様のお定めになっ
ていると言う信仰。このように信じると、自分の失敗も主
の許しの元でおこなわれ、自分の責任だけでなく、神様の
主権で定められていて、試練、苦難と共に解決の道もあ
ることを確信する信仰の励ましています。

アブラハムには一人の子孫、墓地の土地だけが一生涯
かかって手に入れた資産。

イエス様はいのちある種は一粒の種が地に落ちて死ねば
豊かに実を結びますと語っていただきます。

私たちの心の中に宿ってくださる聖霊を信じ、神様の働き
を信じましょう。

小さな小さな信仰、働きであっても、神様の大きな力によ
って育って行くことを信じましょう。

家族でたった一人のクリスチャンであっても主を信じ福音
の広がりを信じ期待しましょう。

この地上で資産を持ちすぎると、それが気になりすぎて、天の御国、天の資産、天のふるさとへの思いが希薄になります。天の御国、天国にすでに主は住まいを備えていてくださいます。地上の資産にところが奪われずに、天の御国を日々覚えつつ、この地上での使命を果たして行きましょう。

天国についた時、よくやった、忠実なしもべだ、と主に言われるように、天に宝を積む人生を全うしましょう。

祈り